

より良いインフラの提供に向けて

～東京の土木行政を支えるしくみ～

東京都建設局のしごと

「道路」「河川」「公園」などの
インフラの整備と維持管理

インフラの理想

- ・安く、早く整備できる
- ・環境に優しい
- ・維持しやすく長持ち

土木の世界では…

土木技術は日々進歩している

その中で建設局は…

新しい技術を積極的に
導入し整備・維持

建設局は、より良いインフラを都民に提供できるよう取り組みを続けています！

新たな技術を適切に局事業に活用しています

例えば…『道路の舗装』

都市の課題

ヒートアイランド現象



舗装性能向上のための調査・開発

道路の舗装面に特殊な塗料を塗ることで、太陽の熱が吸収されないようにできる

道路の騒音



舗装材の隙間を増やすことで、車のタイヤと路面との間で発生する音を減らせる

都の工事で安心して採用するために

要求される性能を満足するか調査

- ・すべり抵抗
- ・耐久性
- ・施工性 etc.



すべり抵抗測定試験



路面低減温度に係る室内照射試験

材料の配合、温度、工法などの多角的な検証や改善策の検討を経て、施工・維持管理等に関わる技術を基準化し、的確に普及されるようにする

都道の舗装に適用



遮熱性舗装



二層式低騒音舗装

東京都土木技術支援・人材育成センター

建設局では、計画や設計・工事を行う実働部門とは別に、技術支援、調査・開発、技術情報蓄積等を行う専門の組織を置くことで、効率的・集中的にこれらの課題等に取り組んでいます。土木学会や大学等とも連携し、最新技術の収集や課題等の情報交換を行っています。

また、将来にわたって質の高い土木行政を推進できるように、都政を技術面から担う人材の育成にも努めています。

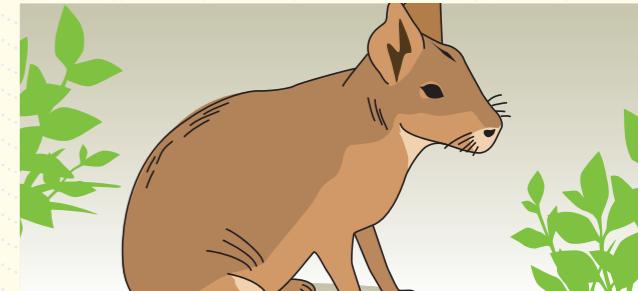


土木技術支援・人材育成センターの業務をもっと知りたい方に

- センターのホームページで、様々な取組成果や、収集した技術情報などを提供していますので、是非ご覧ください。
<http://doboku.metro.tokyo.jp/start/index.html>
- 土木の日にちなんで、11月19日(火)に当センターの一般公開を行います。様々な舗装の実物モデルや、模型・試験器などで土木の世界に触れられます。是非お越しください。

土木の日です！

お問い合わせ先 土木技術支援・人材育成センター TEL: 03-5683-1512



『マーラ』 井の頭自然文化園 高松美香子

「ウサギ!?」「カンガルーだよ!」「足細い!シカじゃない?」。放飼場の掃除中によく聞こえてくる会話です。この、ウサギのようなカンガルーのようなシカのような不思議な動物は、モルモットに近い齧歯類のなかでマーラといいます。南米パタゴニア地方の草原地帯に生息するアルゼンチンの固有種で、準絶滅危惧種に指定されていますが、日本では現在、30箇所ほどの動物園で飼育されており、わりと目にする機会の多い動物でもあります。

井の頭自然文化園では、オス1頭、メス4頭の群で展示しています。今回、一部、動物園サポーター資金を使わせていただき、展示施設の改善を行いました。マーラの生息場所にあわせ、荒れ地に低木がまばらに生えた草原を再現しようと試みたのです。まず、荒れ地の雰囲気を出すために、放飼場に真砂土という山砂を敷きました。植栽が悩みどころでした。植物を植えても、限られた空間では草食動物であるマーラにすぐに食べられてしまうからです。実験的にさまざまな植物を与えてみた結果、ハーブ類はほとんど口にしないことが分かりました。野生では主にイネ科植物を食べているマーラにとって、香りの強い植物は好みではないようです。そこで、パタゴニアの草原に生える低木やイネ科植物の代替として、ローズマリー・ギンバイカ、レモングラスなどを植えてみました。ハーブの植栽は、放飼場を生息環境に近づけることができただけでなく、マーラにとっても休息の際のよりどころとして、なかまと小競り合いした時のかくれ場所として役立っているようです。

動物舎の展示に完成はありません。これからも、動物がくらしやすく、来園者の皆さんにとっても楽しみながら本来の生息環境を知ることができる展示方法をさぐっていきたいと思います。



～動物園の“かお”～

井の頭自然文化園：ニホンカモシカ

2013年8月1日にオスの赤ちゃんが生まれました。
ぜひ会いに来てください！



誕生日：8月1日 撮影日：8月29日